

## 会長挨拶

去る5月31日(土)と6月1日(日)の二日間、第97回全国大会が東京大学本郷キャンパスにて開催されました。31日はやや荒れた天気となりましたが、各種委員会、事務局、開催支部、開催校、そしてもちろんシンポジウムや研究発表の登壇者の方々の綿密な準備のおかげもあり、充実した成果発表、討議、交流の場となりました。来場者は延べ1300人、特別講演には330人ほどの聴衆が集まったとのこと。急な日程変更にもかかわらず温かいご支援をいただいたみなさまに感謝いたします。

ところで、大会後ほどなくして、東京大学文学部では事務から不穏なメールが届きました。何でも、「法文2号館に正体不明の動物が現れた。近づかないように」とのこと。法文2号館は安田講堂に向かって右側の建物で一番大教室や二番大教室、教員談話室などがあり、大会時には大会本部をはじめ、きわめて重要な機能を担っていました。

大会時にそんなことが起きていたら、と思うと、恐怖しかないのですが、冷静に考えてみると少々へんでもあります。

そもそも「正体不明の動物」というと、ほんとうは正体があるのに正体を隠している邪悪な動物(カラスが猫に変装しているとか)といった印象がありますが、実際にはそんな馬鹿馬鹿しいことはないでしょう。おそらく動物の知識

を著しく欠いた若い学生さんが、「廊下にモモンガがいた!」などと騒いで事務室に駆け込み、「まさか、オーストラリアじゃあるまいし(笑)」というような反応を受けた、しかし、事務としても通報を無視するわけにもいかず、このようなメールの発出にいたったのではないかと思います。「正体不明」とは言っても、その正体は心理学研究室から逃げ出した実験用のネズミとかモルモットではなかったかと思われれます。

……と、そんなことをたまたま会議でご一緒した村本研究科長(大会の開会式でもご挨拶いただいた方です)にお伝えしたところ、

「あら、あたしはそのメール見逃しちゃってました」とおっしゃられました。研究科長には毎日百通を超える膨大な数のメールが届きますのでこれは致し方ないことでしょう。こんなモモンガメールに注意を払っている暇はないのです。

ところがこれにつづけて研究科長は、

「そのメールは見逃しちゃってましたけど、同じ頃、法文2号館4階の社会心理学O先生の部屋では蛇が出たそうですよ」とおっしゃるのです。

蛇!

何ということでしょう。全国大会のプログラムに「本郷キャンパスでは蛇が出るので、噛まれないように気をつけてください」などと書いてあったら、おそらく来場者は3分の1くらい

になっていたでしょう。しかも研究科長によると「法文2号館には多いみたいですよ、蛇」——だそうです。

4階に出るくらいなので、3階、2階と降りていたらそれこそうじゃうじゃいるのかもしれませんが。私は蛇は大の苦手なので研究室で静かに本を読んでいるときに、蛇！ などという事態になったら、気絶してしまうでしょう。それは言ってみれば、やきそばを食べているとき、よく見てみたらそばじゃなくて蛇だった！ というようなものです。

〇先生もさすがに蛇の出現には驚愕したようですが、そんな状況でも窓のサッシを走るその姿をスマホで撮影したそうです。さすが社会心理学。

同じく社会心理学がご専門の村本研究科長は、〇先生からその画像を見せてもらったそうです。

「蛇っていうから、さぞ怖いかなと思ったけど、写真で見たら意外とかわいいのよ。ウフフ」とのことでした。

なお、同じくその会議の場にいた開催校委員の新井潤美先生は「あたしは毒のない蛇なら、手で触れるけどね。へへ」と誇らしげに言っておられました。

これなら英文学会も安泰だなと思った次第です。

(阿部公彦)

## 理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするオンライン会議にて、2025年5月24日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2024年度事業報告
2. 2024年度編集委員会活動報告
3. 2024年度大会準備委員会活動報告
4. 2024年度決算報告
5. 2025年度予算確認
6. 2026年度大会開催校の決定
7. 2027年度大会開催支部の確認
8. その他

\*なお上記、事業報告、決算報告、予算、および2025年度事業計画は、詳細を学会ウェブサイト「情報公開」欄でご覧いただけるようになっています。

〔8. その他〕の主な議案は以下の通りです。

- (1) 新評議員・新監事・新理事・新会長の承認について

以下の方々が紹介されました。

理事10名(任期2年) 野村益寛(北海道)、大貫隆史(東北)、阿部公彦(関東)、佐藤和哉(関東)、武田将明(関東)、内田勝(中部)、横内一雄(関西)、荘中孝之(関西)、小野章(中国四国)、後藤美映(九州)

監事2名(任期4年) 佐藤光重(関東)、今林修(中国四国)

評議員7名(任期2年) 十枝内康隆(北海道)、福士航(東北)、岩田美喜(関東)、田中智之(中部)、芦津かおり(関西)、大地真介(中国四国)、中村嘉雄(九州)

- (2) 代表理事・会長の選出について

定款の定めるところに従い、新理事会において代表理事・会長として阿部公彦理事(関東支部選出)が互選され、承認されました。また阿部会長の指名により、横内一雄理事(関西支部選出)が副会長に就任いたしました。任期は2027年の全国大会前

日までの2年です。

- (3) 第97回全国大会 託児所開設最終承認のお願い、および内規の改正について  
急な託児キャンセル時の対応について、現状の託児所規程および理事会内規にこの点にかかわる明記がないことから、新たに対応を明記した内規修正案を検討し、承認されました。
- (4) 第97回全国大会 経費の追加拠出について  
第97回全国大会の開催校（東京大学）より、追加での経費拠出（500,000円）に関わる依頼があり、承認されました。

## 大会準備委員会からのお知らせ

### ◎委員の交代

本年7月1日をもって、内丸公平、志渡岡理恵、大久保讓、小笠原亜衣、戸塚将、北和丈の6氏が任期満了により退任しました。後任には、高森暁子（筑紫女学園大学）、吉田直希（成城大学）、川崎明子（駒澤大学）、古谷裕美（関東学院大学）、廣川貴朗（福井大学）、松浦加寿子（倉敷市立短期大学）の6氏が選出されました（任期は各委員とも3年）。委員長は小宮真樹子氏、副委員長は下楠昌哉氏です。

### ◎第97回大会の『大会 Proceedings』について

第78回大会から刊行がはじまった『大会 Proceedings』ですが、2019年度から冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版（PDF版）へと移行いたしました。第97回大会に関しましては、研究発表44件（招待発表8件を含む）中17件（38%）、シンポジウム発表51件中28件（55%）、特別研究発表1件、特別講演1件、総発表数97件中47件（48%）の論文をお寄せいただきました。なお、『大会

Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のものでありますので、それを大幅に加筆して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは新人賞に応募することが認められています。

また、『大会 Proceedings』の電子版（PDF版）への移行に伴い『支部大会 Proceedings』も、各支部ウェブサイトで公開される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

### ◎第97回大会の開催形態およびアンケートについて

第97回大会は、対面形式での開催となりました。会員外の方を含め、2日間とも非常に多くの方にご参加いただきました。皆様には心より御礼申し上げます。5月31日から6月4日にかけて Google Form および紙媒体を用いて実施したアンケートには39件の回答があり、開催校のご尽力に感謝する声が多く寄せられました。

### ◎第98回大会の開催日・開催校等

時 2026年5月16日（土）、17日（日）  
所 同志社大学今出川キャンパス（京都市上京区）

開催校委員 金津和美（委員長）、円浄ゆり、川島健、桐山恵子、斎藤彩世、下楠昌哉、白川恵子、瀧田健介、山辺省太

支部委員 横内一雄（委員長・関西学院大学）、関良子（三重大学）、竹村はるみ（立命館大学）、西谷茉莉子（京都府立大学）、吉川朗子（神戸市外国語大学）

同志社大学の先生方には大変なお仕事をお引

き受けいただき、誠にありがとうございます。  
また全国大会担当支部である関西支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ◎第98回大会のシンポジウム企画の内定

第98回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました（敬称略。タイトルの変更の可能性あり）。第1～6部門は大会第1日（5月16日）、第7～12部門は第2日（同17日）にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「規範との戯れ——初期近代のテキストにおける結婚の表象」

司会・講師 岩田 美喜（立教大学教授）  
講師 末廣 幹（専修大学教授）  
講師 竹山 友子（関西学院大学教授）  
講師 木村明日香（中央大学准教授）

第2部門「19世紀から20世紀初頭における古生物学と文学表象（仮）」

司会・講師 中村 仁紀（京都大学准教授）  
講師 南谷 奉良（京都大学准教授）  
講師 Neil Addison（日本女子大学教授）  
講師 溝井 裕一（関西大学教授）

第3部門「書く子ども／書かれる子ども——主体と客体のあいだ（仮）」

司会・講師 牟田有紀子（城西大学准教授）  
講師 川端 有子（日本女子大学教授）  
講師 猪熊 恵子（東京科学大学准教授）  
講師 佐美 真理（東京藝術大学教授）

第4部門「『アフター西洋』の英文学？、または、ユーラシアのイングリッシュ・ス

タディーズ？ —— グローバリゼーション終焉以降の文学・文化研究を考えてみる」

司会・講師 大田 信良（東京学芸大学教授）  
講師 小笠原亜衣（関西学院大学教授）  
講師 四戸 慶介（岐阜聖徳学園大学専任講師）  
講師 田中 恵理（熊本保健科学大学准教授）

第5部門「Sensing the Seven Deadly Sins: 中世英文学の五感を読む」

司会・講師 和田 葉子（関西大学名誉教授）  
講師 Patrick Paul O'Neill  
（ノースカロライナ大学名誉教授）  
講師 狩野 晃一（明治大学准教授）  
講師 吉川 史子（広島修道大学教授）  
講師 和治元義博（北里大学教授）

第6部門「障壁理論40周年——局所性研究の進展と課題」

司会・講師 中島 崇法（弘前大学助教）  
講師 勝 慎将（南山大学講師）  
講師 杉本 侑嗣（大阪大学講師）  
講師 堤 博一（都留文科大学講師）  
コメンテーター 大石 正幸  
（東北学院大学教授）

第7部門「アメリカン・モダニズムとゴシック——ウォートン、フィッツジェラルド、フォークナー、ヘミングウェイ」

司会・講師 千代田夏夫（鹿児島大学准教授）  
講師 藤野 功一（西南学院大学教授）  
講師 新井 景子（学習院大学教授）  
講師 横山 晃（明治大学専任講師）

第8部門「Geography and Poems—Shuri Kido's *Names and Rivers* and Forrest Gander」

司会・講師 遠藤 朋之（和光大学准教授）  
講師 城戸 朱理（詩人・翻訳家）  
講師 Forrest Gander（詩人・翻訳家）

第9部門「未来への想像力——19世紀アメリカにおけるプロト・サイエンスフィクション（仮）」

司会・講師 中村 善雄（京都女子大学教授）  
講師 城戸 光世（広島大学教授）  
講師 中垣恒太郎（専修大学教授）  
講師 渡邊 克昭（名古屋外国語大学教授）

第10部門「言語変化の狭間で」

司会・講師 大野 英志（広島大学教授）  
講師 澤田真由美（愛知学院大学准教授）  
講師 片見 彰夫（青山学院大学准教授）  
講師 渡辺 拓人（関西学院大学准教授）

第11部門「機能主義的な言語研究（仮）」

司会・講師 鈴木 大介（大阪大学准教授）  
講師 角岡 賢一（龍谷大学教授）  
講師 中川奈津子（九州大学准教授）  
講師 船本 弘史（摂南大学准教授）

第12部門「英語教育のいま：教室内外をつなぐ学びのデザイン」

司会・講師 寺西 雅之（兵庫県立大学教授）  
講師 小林めぐみ（成蹊大学教授）  
講師 Tim Cleminson（岡山大学准教授）  
講師 石野 未架（同志社大学准教授）  
講師 櫻村 真由（東京工業高等専門学校准教授）

◎第98回大会招待発表

第98回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました。（敬称略。50音順。）

圓月 勝博（同志社大学教授）  
大河内 昌（東北大学名誉教授）  
金澤 俊吾（高知県立大学教授）  
久木田直江（静岡大学名誉教授）  
後藤 和彦（東京大学教授）  
笹川 浩（中央大学教授）  
中村 達（千葉工業大学准教授）  
那須 雅子（岡山大学教授）

◎第98回大会の特別企画

第98回大会2日目（5月17日〔日〕）の午後には、理事会企画として、俵万智氏、渡辺祐真氏にご対談いただく予定です。詳細は来春発行の『第98回大会資料』および学会ウェブサイトに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎第98回大会研究発表の募集

第98回全国大会の研究発表を募集しております。学会のホームページ（<https://www.elsj.org>）上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。サイト上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは、学会ホームページをご覧ください。応募の締め切りは11月1日（必着）です。

◎シンポジアムのアイデア募集について

シンポジアムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局（[etaikai@elsj.org](mailto:etaikai@elsj.org)）までお寄せください。ただし、提案者は参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイデアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジアムを企画立案する際の参考資料として活用します。

### ◎大会ワークショップについて

第86回大会より導入されたワークショップですが、第98回大会では応募がありませんでした。次回、第99回大会（2027年開催）のワークショップの応募要領は学会ホームページ（<https://www.elsj.org>）に掲載しております。奮ってご応募ください。なお、第99回大会のワークショップ応募締め切りは、2026年4月末日です。

## 編集委員会からのお知らせ

### ◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号（12月刊行）、英文号（3月刊行）の年各1冊という刊行形態となっており、これに応じてそれぞれ投稿締切が設定されています。昨年9月1日締切の英文号には22本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には17本の投稿論文が寄せられました。

### ◎第48回新人賞応募状況

第48回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は7篇（英文学3篇、米文学2篇、英語学2篇）です。応募者のみなさまには心より感謝申し上げます。

今年度、第一次銓衡を通過したのは1篇（英語学）でした。第二次銓衡において慎重な議論を重ねた結果、中島崇法氏（弘前大学人文社会科学部助教）の“Symmetry Breaking in Freezing, Wh-Island, and Proper Binding Condition Effects”が新人賞受賞となりました。受賞論文には賞金10万円が授与されます。

全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第102巻に掲載されます。

### ◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』（和文号、英文号）に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第102巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

### ◎各種規程の変更について

一昨年10月に論文投稿規程および新人賞規程が改訂され、昨年度の投稿から反映されています。論文を投稿・応募される方は、和文号第100巻以降の『英文学研究』雑録内および学会ウェブサイト上に掲載されている最新の投稿・応募規程に沿って論文をご作成いただきますようお願い申し上げます。主な変更点は下記の4点です。

- ① 共著論文は、共著者全員が会員であれば投稿可能である旨を明示しました。投稿・応募は会員一人につき論文1本とし、共著論文も論文1本と見なします。執筆者用抜刷は論文1本につき20部とします。
- ② 論文の投稿・応募者は、学会ウェブサイトより所定のGoogleフォームにアクセスし、必要事項をご記入の上で各投稿締切までにご送信くださいますようお願いいたします。なお、これに伴いカバーレターの提出は廃止されています。
- ③ 註はワープロソフトの註作成機能を使わずに本文と同じ書式で作成し、原稿の末尾にまとめて付ける旨を明示しました（日本語論文投稿規程(4)[3] および新人賞規程(5)[3]）。
- ④ 書式の細部についてはThe MLA Handbookなどの標準的なスタイルマニュアルの最新版に従う旨をより明確にしました（英語論

文投稿規程 (4)[2] および英語版新人賞規程 5[2])。

## 事務局からのお願い・ご報告

### ◎支部大会資料統合版の刊行停止について

支部大会資料統合版は引き続きウェブ掲載のみとなります。支部大会の開催日程、プログラム等については、本部および各支部の HP でご確認ください。

### ◎支部 HP の [https](https://www.eonline@elsj.org) 化ならびに本部 HP のトラブルについて

現在、Google や Microsoft 等の [https](https://www.eonline@elsj.org) ファースト強化により、北海道支部の HP 閲覧に支障をきたすケースが発生しております。本部 HP 等でお知らせしております通り、対象のウェブサイトをクリック後、ブラウザに表示されている URL の [https](https://www.eonline@elsj.org) の s を削除し、Enter キーを押すことで問題が解消されることがあります。また可能であれば Firefox や Safari 等、別のブラウザでの閲覧を試みていただきますようお願いいたします。会員の皆様にはご迷惑をおかけしており申し訳ありません。

また、本部 HP において、ページ内の形が崩れる現象が時折見られます。判明次第、不具合解消に努めておりますが、お急ぎの場合、[eonline@elsj.org](mailto:eonline@elsj.org) までお知らせいただけますと幸いです。

今後も鋭意対応してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### ◎今年度の大会について

2025 年 5 月 31 日 (土)・6 月 1 日 (日) 東京大学本郷キャンパスにて第 97 回全国大会が対面開催されました。初日はあいにくのお天気と

なりましたが、二日目には雨もあがり、良いお天気に恵まれました。2 日間にわたって、44 の研究発表、12 のシンポジウムと特別研究発表、ワークショップ、そして最後に特別講演が行われました。

発表者、登壇者、講演者の皆さまには充実した発表をしていただき、また当日会員を含め本当にたくさんの方々各地からご参加くださいました。今大会では半年前に急な日程変更がわかりご不便をおかけいたしました。皆さま方のおかげをもちまして、どの部屋も盛況のうちに終わりました。発表者、講師、登壇者、司会者の皆さま、書店展示にご参加いただいた協賛会員の皆さま、そしてご参加いただいた会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。

今回の運営上の反省点やアンケートでいただいたご意見は今後活かしてまいりますので、さらなるご提言などありましたら、事務局 ([ejimu@elsj.org](mailto:ejimu@elsj.org)) までお寄せください。

また、今大会の実現に向けて多大なご尽力を賜った 2024 年度の大会準備委員会の皆さまにも、この場を借りて御礼申し上げます。加えて、開催校の東京大学の皆さま、開催支部の関東支部の支部委員の皆さまにも、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### ◎来年度の大会について

すでに学会 HP およびメーリングリストでもお知らせしておりますように、来年の第 98 回大会は 2026 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日) の両日に、同志社大学今出川キャンパスにおいて開催されます (日程は予定)。開催校をお引き受けくださった同志社大学の皆様に、心より御礼申し上げます。

今回の大会は対面で開催されます。全国大会に関する最新情報は、学会 HP (<https://www.eonline@elsj.org>)

elsj.org/)に掲載されますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

なお、懇親会につきましても現在開催の方向で検討しております。こちらも決定次第学会HPにてお知らせいたします。

### ◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、全国大会期間中に託児業者に委託する形で、託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、決まり次第学会HP上で告知いたします。

### ◎ハラスメント相談窓口について

2024年6月4日に理事会にて承認されました「日本英文学会ハラスメント防止ガイドライン」に則り、Adecco株式会社のハラスメントダイヤルに外部委託するかたちで、2025年度4月よりハラスメント相談窓口の運用を開始いたしました。相談窓口のご利用を検討中の方は、本ウェブサイトの情報公開欄から、「ハラスメントダイヤル告知チラシ（日本英文学会）」をダウンロードいただき、4月1日のメンバーリストで周知されたパスワードでご覧ください。

### ◎メンバーリストによる学会情報の配信について

現在、学会活動に関する情報は随時メンバーリストを通じて会員の皆様に一斉配信しています。メールアドレスのご登録がお済みでない方や変更のある方は、学会HPのお問い合わせページ (<https://www.elsj.org/inquiry.html>) より手続きをお願いいたします。なお、学会活動に関する情報はこれまで通り学会HPにも掲載いたします。

### ◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2025年度会費は、例年通り、一般会員8,000円（本部会費7,000円＋支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加）、学生会員5,000円（本部会費4,000円＋支部会費は一般会員に同じ）、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引き続き刊行物をお送りいたします。2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2026年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

ご自身の会費納入状況が不確かな場合には、HPの「お問い合わせ」(<https://www.elsj.org/inquiry/>)にありますフォームにて事務局までご連絡ください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料がかかりますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。ゆうちょ銀行に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入してご返送いただくだけで、簡単に利用できます。領収書もご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、HPの上記お問い合わせフォーム (<https://www.elsj.org/inquiry/>) よりご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会HP (<https://www.elsj.org/>) の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧ください。

ほか、メールで事務局 (ejimu2@elsj.org) までお尋ねください。

### ◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会HPに著書紹介を掲載できるようにいたしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、掲載開始日から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局 (ejimu2@elsj.org) までWORDの添付ファイルにてお寄せください。もし可能でしたら、こちらのテンプレート (<https://www.elsj.org/books/format.html>) の通りをお願いいたします。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概 1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2025年7月末の時点で59冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

### ◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会HP (<https://www.elsj.org/>) の「情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞふるってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局 (ejimu@elsj.org) 宛てメールにてお送りくださ

い。

### ◎次回の Newsletter について

次回の Newsletter は、2026年3月中旬刊行予定の『第98回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間に、大会開催形態を含めてお知らせすべき情報は、随時、学会HPやメーリングリストを通じてお知らせしますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

### ◎訃報

会長を務められた(1992~95年)海老根宏先生が2025年8月7日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### ◎その他

本年5月末をもって、前任の猪熊恵子事務局長、中嶋英樹大会準備担当書記が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、英文学会の運営にも献身的にご尽力くださり、膨大な業務と数々の困難に、非常に優れた判断力と粘り強さで対処してくださいました。この場をお借りして、退任された猪熊、中嶋両氏に心より御礼申し上げます。新事務局はご両名のご貢献に深く感謝しつつ、過去から引き継がれてきたすべてを大切に守っていきたく考えています。そしてさらなる業務の効率化を目指し、さまざまな新しい試みにも挑戦してまいりたいと存じます。

またこの交代に先立って、4月より新たに田代尚路(事務局長補佐)、友田奈津子(大会準備担当書記)の2名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました。秦邦生とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。事務職員とし

ては、2024 年度より引き続き、法人契約を結んで業務委託をしております北烏山編集室の樋口真理氏、津田正氏に、2024 年度から継続のアルバイト職員 1 名、3 名の体制でさまざまな業務にあたっております。一同力を合わせ、阿部公彦会長のもと、会員の皆様の研究環境がよりよいものとなりますよう努めてまいりたいと存じます。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましてはご指導・ご協力のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本英文学会事務局

秦邦生・田代尚路・広本優佳・瀧川宏樹・加太康孝・友田奈津子